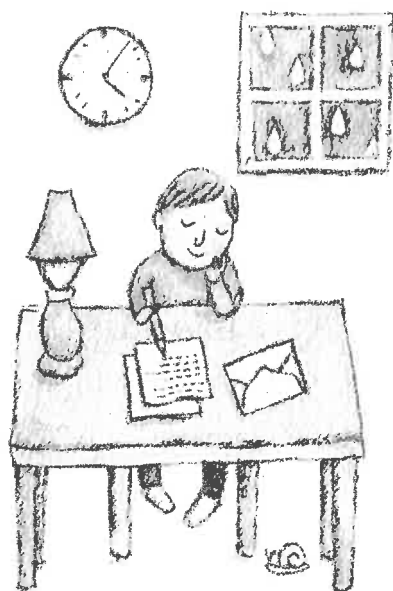


# 聴く

新潟いのちの電話だより

2020.6

No.145



相談電話

**(025) 288-4343**

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa.org/>

## あるタクシードライバーの患者さん

向井 勉

その個人タクシーをされている50代の患者さんは、普段はほとんど話もされることもない、少し気難しい感じの方でした。ある朝、薬局が開局する前にいらして「ちょっと話を聞いてくれるか」とおっしゃったので、相談カウンターに座っていただきました。実はこの方は身寄りのない1人暮らし。時々「夜、車を駐車場に止めさせてくれないか」とおっしゃることがあり、お貸していたのです。末期の肺がんで、具合が悪くなったらすぐに病院の救急外来にかかっていたそうです。日に日に痛みが強くなり、救急外来にかかる頻度が増えてきた中、昨夜病院でこんなことを言われたそうです。「〇〇さん、演技なんじゃないの」と笑われたんだ。向井さん、なんで俺が演技しなきゃならないんだ！身寄りもない1人のアパートで死にたくないんだよ。だから調子が悪いときは駐車場の車の中に布団持ってきて寝てるのに、それをあいつら笑いやがって…悔しい…」と声を上げて涙を流されていました。30分ほどお話をお聴きしただけなのですが、最後にこうおっしゃいました。「向井さん、聞いてくれてありがとうな。こんな話できるところどこにもなくてさ。いつも向井さんとこの薬局使っていてよかったよ」と。駐車場にはその1週間後くらいから数日そのタクシーが止まったままの日が続いた後、車の業者が引き取りにきました。きっと入院され亡くなられたのだと思います。

薬局は薬を渡すだけの場所と思われていますが、私たち薬局は実は健康な生活と医療の間で誰にも言えないことが話せる大切な位置にいるのだと学ばせていただきました。人とのつながりは、話す人と同時に聴く人がいることで生まれ、そのつながりは少しだけ人を救えるのだと。それから数年後、私たちは全国でも珍しく薬局が自殺予防に取り組むことを目指して小さな一歩を踏み出すこととなります。

(薬剤師・株式会社ファーコス 取締役)

## 自粛生活の中で思うこと

高橋 聡子

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)が世界各国で蔓延し、日本でも史上初の緊急事態宣言が発令されました。多くの人々が互いを守るため自粛をしている中、例年のないゴールデンウィークが終わりました。私の職場でも3月初旬より感染防止対策委員会が対策を打ち出しました。3つの密を作らないために、ソーシャルディスタンスを保ち、職員食堂の使い方も変わりました。座席を一つ空けて横一列に並んで座り、食事をしながらのおしゃべりも自粛中のため、みんなが黙々と目の前のお弁当に向き合うのです。いつも一緒に食事していた他部署の人との何気ない会話は無くなり、それぞれスマホをいじり、テレビの音だけが食堂内に響く…一種異様な光景に、私は今でも慣れません。昼休憩の短い時間であっても、日常の取り留めのない話やちょっとした困りごとなど、お互いに話し、聴き合うことが、どれだけ私のこころの安らぎになっていたか…。思わぬ形で痛感することとなりました。

“話す”ことでもたらされる良い効果は沢山ありますが、“聴く”人がいなければ成立しません。どんな内容であったとしても、真剣に耳を傾け寄り添ってもらえることで、独りではないと安心したり、自分の存在を実感したりできるのではないのでしょうか。いのちの電話は正にその役目を担っていますが、今や相談員の皆さんもウイルスという「災害」にあい、不安に晒されている状況だと思います。研修も中止になっており、皆で顔を合わせて話し合うことができず、活動についての悩みも抱えこんでいるのではないかと心配しています。この難所を乗り越えるためにも、まずは自身の心のケア、身体のケアを大切にいただければと思います。この原稿が載る『聴く』が発行される頃には、少しでも収束の兆しが見えていることを祈っております。

(臨床心理士)

毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は  
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。

電話番号 0120-783-556

## ある日の相談室より

冬の深夜に1本の電話をとると、若い女性のか細い声でした。

「マンションの…、10階のベランダにいる…」

「もう無理、もう嫌だ、こんな生活…」

もう少し話をきかせてほしい、ベランダから離れて室内に戻りませんかと声をかけますが、風の音だけが聞こえます。どうか切れないでと願いつつ、耳を澄ませ、時々声を掛けながら待っていると、ポツリポツリと話し始めてくれました。

交際している男性にDVを受けている。無職の彼に1万、2万とお金を渡し、気づけば50万円ほどになってしまった。昨晚もお金を渡すと出て行ったきり、連絡がつかない。つらくて親友にLINEすると「いいかげんに目を覚ましなよ。いつまでそんなクズに依存しているの」と、突き放されてしまったとのこと。もう消えてしまいたいとベランダの手すりに手をかけたけれど、やはり怖くて、そのままどまっていた。以前リストカットしたときに電話した「いのちの電話」にかけてみた、ということでした。

寒さと悲しさと震える声に耳を傾け、どのくらい時間が経ったでしょうか。ふと彼女がつぶやきました。「きついけど、あったかい親友なんですよ…」そしてその直後「カア」と鳴き声が響きました。

「あー、カラス？ベランダで朝になっちゃった…」

先ほどの凍りついたような口調とは違って、自分を思ってくれる親友がいて、その人の気持ちに温められた心がつぶやいたような声に感じられました。



ほどなく「部屋に戻りますね」と電話は終わりました。その後彼女がどうしたか、彼とどうなったのか、知ることはできません。でも、一晚踏みどまり、少し前を向いてくれた力を信じ、彼女の幸せを願い続けています。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)

# お知らせ

## 年3回の発行となります

広報誌「聴く」は、今年度より発行回数を1回減らし、年3回の発行となりました。6月、9月、12月を予定しております。引き続きよろしく願いいたします。

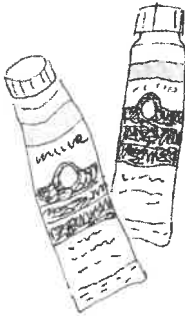
## 第38期 電話相談員養成講座開講

例年4月に開講する養成講座ですが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、10月から実施することになりました。ご自身や周りの方の健康を第一に、秋からの研修で一緒に学んでいきたいと思っております。

## 会費納入のお願い

平素よりいのちの電話の活動をご支援いただき、心より感謝申し上げます。  
毎年6月に、会費納入のお願いをしています。

いただいた会費は、センターの維持費、相談員の研修費など、いのちの電話の活動に使わせていただきます。ご協力、ご支援をお願い申し上げます。



2020年6月5日発行  
社会福祉法人 新潟いのちの電話  
〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3  
新潟ユニゾンプラザ ハート館  
事務局 TEL (025) 280-5677  
FAX (025) 280-5677  
ホームページアドレス  
<http://www.ni-denwa.jp>

6月の絵手紙

---



Sakurai Kouji